

6 / 1 1 関西活性化シンポジウムより今後を考える

「京大・阪大・神大3大学トップ大いに語る

～産官学の代表が活力ある明日への関西へ向け提言～」から

リード個別指導 岩崎 美好

2010/06/15

* 6 / 1 1 関西活性化シンポジウム

→池田泉州銀行グループが開催

パネリスト

- ・学 京大 松本総長 ・阪大 鷲田総長 ・神大 福田学長
- ・官 深野近畿経済産業局長
- ・産 尾崎大阪ガス社長 ・産 手代木塩野義製薬社長

以下、各発言から私が気になったポイントを要点としてまとめ、コメントをつけました。(各氏の発言全部ではありませんし、あくまで私の解釈です。録音等は禁止であったため、不正確な部分もあることはご容赦下さい。)

(注: 産=産業界=企業、官=国などの行政、学=大学・研究機関など)

<深野近畿経済産業局長>

- ・経済の現状としては、リーマンショックで輸出が落ち込んだが、外需と個人消費で回復しつつある。特にアジア向け輸出で回復。
- ・今後新興国のマーケットが増え、世界市場は伸びているが、日本のシェアが減少している。

これは日本のビジネスモデルの問題。2年前と比べても、日本はアジアでの地位が低下している。

- ・問題は、グローバルな人材の不足。英語などの語学力や海外に出て行こうという意欲の面で、人材が不足していること。
- ・自動車産業だけでなく、世界で稼げる戦略分野を強化していく必要がある。
～バイオ産業、健康長寿産業、ロボット産業、ファッション・アニメなどの文化産業、など。

コメント

経済産業の国家官僚の問題意識が伺えます。

日本経済の現状として、先進国の行き詰まりーリーマンショックに現れたアメリカの危機、最近のギリシア問題に突き出されたヨーロッパ= EU の構造的危機ーの中で、日本の誇ってきた輸出産業が世界でのシェアを落としてしまっています。要は、日本のものが、世界で売れなくなってきたということです。

そして、この危機を打開するにあたって、「グローバルな人材の不足」が、今や日本経済の大問題になりつつあるということです。

やはりこれからは、世界に出て、世界の人々を相手に仕事ができる人材が求められているということです。

<京大 松本総長>

- ・日本経済は、落ち込んでいる。GDPが、OECDで2000年に3位だったのが、2007年には19位。国際競争力が低下している。
 - ・それを底上げするはずの科学技術関係予算が日本だけマイナス。教育でも、千人あたりの大学院生数・公的財政支出が先進国の中では非常に少なくなっている。
 - ・日本経済は、東京一極集中で、大企業の本社はほとんど東京にあり、利益が関西など地方から東京にすいあげられてしまう。
 - ・しかし、人口千人あたりの大学生数は、東京14人に対して関西29人と多い。また関西はモノ作りの会社が多い。したがって、関西には産学連携の土壌がある。
 - ・大学・企業・国が一体となって関西のレベルアップをはかっていきたい。
 - ・京大は、グローバル化の中で、「経済が成長し続けるとどうなるか？」を見通せる人、つまり行き詰まりが来たときそれを解決できる人を育てたい。狭い専門知識だけでなく、視野の広い人材を育てたい。
- 「もっと、まだまだ、勝たねば」ではなく、「もったいない、みっともない、かたじけない」という発想プラス科学技術をもった人材を育てたい。

コメント

日本の科学技術を支えるべき教育関係の予算が、先進国では最低レベルという指摘は驚きです。資源が少なく、人材しかない日本で教育水準が低下するとは。日本経済が沈没し始めているのではという危惧が出てきています。総長は、大量生産・大量消費、新自由主義の自己のもうけ第一のグローバル経済それ自体を見直す人材育成を考えているようにも感じられました。

<阪大 鷺田総長>

- ・経済発展にも文化が必要ではないか。
グローバルな時代は、国同士の対抗以上に、メガ（*注 巨大）都市間の対抗している。各都市が強調する”普遍的価値”がある。例えば、フランス・パリの「エレガンス」、ドイツの「緻密さ」など。
関西も、そういう個性的普遍性をもった世界都市にならなくてはならない。
- ・関西には、奈良、京都、大阪、神戸と違う歴史をもった都市が存在する。
それを生かして、関西のブランド力をつけていったらよい。経済は、文化の力があって、ブランド力を持てる。
- ・阪大は、適塾・懐徳堂を出発点に、もともと大事なものに投資する大阪の市民が作った大学。その歴史を踏まえ、教養、人と人を結ぶデザイン力、国際性を備えた人材を育てたい。それと、外大を統合した教育力を生かして、どの学部でも外国語ができる学生を育てたい。

コメント

鷺田氏、阪大で最初の文系総長。哲学者の本領を発揮して、経済と文化の関係を論じ

られておられました。

しかし、この”普遍的価値”について各都市に共通なコンセプトを形成し、実践していくのは、結構大変そうです。

<神大 福田総長>

・関西の強みは、製造業が多いこと、学術・研究機関が多いこと、文化歴史があること。これを生かして、関西の大学間連携を強化し、産官学の組織を作っていくことが、関西活性化につながるのではないかと。

・教官がグローバル化に対応できなくてはいけないので、まず45歳未満の若手教官を毎年60人一年間海外に派遣するようにした。もって、学生の意識を世界にむけていきたい。

学生には、基礎学問＋複数分野・学際分野にチャレンジさせていきたい。

コメント

国際化への対応、大学間連携などでは、神大はかなり力を入れているようです。実際毎年60人の教官が海外に出て世界の空気を伝えていくと、大学の様相がかなり変わっていくと思われまます。

<まとめ>

国を支えている官僚も企業も目を世界に向けています。

これから皆さんが行こうとしている大学もそうです。

パネリストの方々が危惧しておられたのは、「日本の若者が内向きになっている」ということでした。龍馬のように幕末の困難な時代でも、日本の多くの若者が世界に目をむけ世界に学んでいこうとしていたのに、今のグローバルな時代に世界に出て行こうという意欲を若者が失っているとうことです。

リードでも、オンライン英会話をやっていますが、確かに「外国人と話すなんてとんでもない」「日本語だけで十分」という生徒さんが少なからず存在します。

全員が、大学・企業の求めるグローバルな人材にそのままなる必要はないでしょうが、少なくともそういう時代であるということ認識して、自分がこの世界でどう生きていくのか、これから大学で何を学んでいくのか、社会に出てどう自分の力を発揮していくのか、しっかり自分の頭で考えていって下さい。

皆さんが勉強しているのは、将来社会で生きていくために必要な力をつけるためです。

今回のシンポであらためて思ったのは、今の社会では、グローバル社会に適応できる人材が強く求められているということです。

日本の企業でも日本語ができるインド人・韓国人・中国人を雇うところが結構増えてきているようです。日本語しかできない、あるいは日本人としかつきあいのない閉ざされた日本人より、日本語も英語もでき海外になれた外国人の方が即戦力として企業にも有利だからです。今や文系・理系に関係なく、英語は必須になっているということです。

このような時代に生きていることを意識して、がんばって勉強していただきたいと思います。

がんばりましょう！

お知らせ

夏期講習

7月14日(水)～9月4日(土)

～近日中にご案内配布予定

*受験対策・苦手科目克服などにこの夏猛ダッシュ!

*学校・自分のスケジュールに合わせて、精一杯がんばろう!

期末テスト対策

テスト対策として

- ・無料補講(週一回授業の人は一回実施。)
- ・勉強のやり方指導(希望者 or 必要と判断される人)
- ・公立中学過去問演習(受講科目は全員。非受講科目も希望者はやっています。)

*通常受講していない科目でも、**テスト対策をオプションで追加**できます。

お早めにお申し込みください。

バリ島夏期英語研修・異文化体験ツアー

8月16日(金)～20日(火) 3泊5日 158,000円

～予定が合わない人が多かったので、日程変更

航空券がとれなくなりますので、お早めにお申し出下さい・

Twitter よかったらフォローしてみてください。

leadivasaki でフォローしてみてください。リードのHPでも見られます。
勉強のことなど、リードに関することを時々 twit しています。